

「2018 “よい仕事おこし” フェア」に向け 3つの地域連携プロジェクトが始動！

当金庫では、平成 30 年 9 月 19 日（水）・20 日（木）の2日間にわたり、「2018 “よい仕事おこし” フェア」を東京国際フォーラムにて開催します。

さまざまな企業・団体が一堂に会し、経済の活力を取り戻すための新たな“よい仕事おこし”を実現し、日本を明るく元気にすることをめざすほか、全国47都道府県の信用金庫の協力・協賛のもと、以下の3つの地域連携プロジェクトを実施します。

● 「絆のおむすび」プロジェクト

全国47都道府県産のお米をブレンドして炊いたごはんで「おむすび」をつくります。

● 「心の寄せ鍋」プロジェクト

日本料理「つきぢ田村」三代目田村隆様監修のもと、東日本大震災の被災地などから取り寄せた食材で鍋料理をつくります。

● 「興こし酒プロジェクト」～第2章～

全国47都道府県産のお米をブレンドして、新たに日本酒を醸造します。



平成 30 年 5 月 26 日（土）には、福島県河沼郡会津坂下町にて、「興こし酒プロジェクト」～第2章～の仕込みセレモニーが行われ、新酒「絆舞」（きずなまい）の名前が発表されるとともに、関係者の皆様と仕込み作業を行いました。当プロジェクトでつくったおむすびや寄せ鍋、日本酒は、フェアの会場内で販売されます。ぜひご賞味ください。

「新現役交流会」を開催

当金庫では、平成 30 年 7 月 4 日（水）、経済産業省関東経済産業局との共催による「新現役交流会」を開催しました。

販路拡大や製品開発などさまざまな経営課題を抱えた中小企業と、大手企業などに永年勤め高度な知識や豊富な経験をもつ企業OB（新現役）の方々とをマッチングする機会を設け、中小企業の事業支援につなげることを目的とした取組みで、今回は、お取引先 18 社が事前に申込みのあった新現役の方と熱心な面談を行いました。



城南信用金庫の経営内容について（平成 30 年 6 月末）

1. 預金と貸出金について

	30年3月末	30年6月末	増加額（増加率）
預金残高	3兆6,325億円	3兆6,603億円	278億円（0.7%）
個人預金残高	3兆1,227億円	3兆1,381億円	154億円（0.4%）
貸出金残高	2兆1,967億円	2兆1,894億円	△72億円（△0.3%）

※預金残高には、譲渡性預金（30年3月末：1億円、30年6月末：1億円）を含んでいます。

2. 不良債権について

当金庫では、「自己査定に基づく分類貸出金」「金融再生法で定められた債権区分」「信用金庫法で定められたリスク管理債権」の3つの基準で不良債権を開示しています。

①自己査定に基づく分類貸出金

●債務者区分別貸出先数・貸出金残高等

（金額単位：億円）

		先数	金額（構成比）
正常先	業況が良好で、財務内容にも問題のない先	46,701	16,418（75.0%）
要注意先	今後の管理に注意を要する先	5,806	4,965（22.7%）
内訳	A 貸出条件緩和債権がなく、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先	5,769	4,887（22.3%）
	B 貸出条件緩和債権があり、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先	25	32（0.1%）
	C 期限経過・延滞が1ヵ月以上3ヵ月未満の先、ならびに要管理先のうち、無保全額が多額で、将来においてリスクの発生する可能性が高く、個別に引当を行うことが望ましい先	12	45（0.2%）
破綻懸念先	事業は継続しているものの、今後、経営破綻に陥る可能性がある先	1,148	433（2.0%）
	経営改善支援のため積極的に融資を行っている先	132	100
実質破綻先	実質的に経営破綻の状況に陥っている先	275	61（0.3%）
破綻先	法的・形式的に経営破綻の事実が発生している先	64	12（0.1%）
国・地方公共団体（回収について危険性がなく、債務者区分を行っていません）		1	3（0.0%）
合計		53,995	21,895（100.0%）

●分類貸出金

（金額単位：億円）

		金額（構成比）	償却・引当 予定額	償却・引当後 無保全額（見込み）
I分類	回収について問題のない貸出金	17,891（81.7%）	—	—
II分類	回収について注意を要する貸出金	4,001（18.3%）	—	—
III分類	回収について重大な懸念がある貸出金	1（0.0%）	1	0
IV分類	回収不能と判定される貸出金	1（0.0%）	1	0
合計		21,895（100.0%）	2	0

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

・III分類、IV分類の貸出金については、回収に取り組んでまいりますが、年度末までに回収ができない場合は、その100%を償却・引当処理する方針です。

②金融再生法で定められた債権区分

（金額単位：億円）

	金額（構成比）	うち 無保全額	償却・引当 予定額	償却・引当後 無保全額（見込み）
正常債権	21,358（97.5%）	—	—	—
要管理債権	43（0.2%）	—	—	—
危険債権	434（2.0%）	1	1	0
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	74（0.3%）	1	1	0
合計	21,908（100.0%）	2	2	0

※「金額（構成比）」は、単位未満を四捨五入しています。

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

・「危険債権」「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」の無保全額については、回収に取り組んでまいりますが、年度末までに回収ができない場合は、その100%を償却・引当処理する方針です。

③信用金庫法で定められたリスク管理債権

(金額単位：億円)

	金額
リスク管理債権総額 (A)	266
破綻先債権額	12
延滞債権額	94
3ヵ月以上延滞債権額	—
貸出条件緩和債権額	160
うち担保・保証付き債権額(B)	235
リスク管理債権(C)=(A)-(B)	30
貸倒引当金残高(D)	43
貸倒引当金控除後のリスク管理債権(E)=(C)-(D)	△ 12

- ・担保・保証控除後の「リスク管理債権」、いわゆる無保全部分は 30 億円となっていますが、回収に鋭意取り組んでまいります。
- ・今年度に入って発生した不良債権に対する引当分等や、回収された引当金を加味すると、貸倒引当金残高はリスク管理債権 (C) を 12 億円上回る 43 億円となる見込みであり、高い健全性を示していると言えます。

3. 有価証券の状況

●売買目的有価証券、満期保有目的の債券

該当ありません。

●その他有価証券で時価のあるもの

(金額単位：百万円)

	帳簿価額	時 価	評価差額	過年度処理済額	今年度増減額
株 式	87	236	148	154	△5
債券・その他	395,544	399,141	3,597	3,575	21
合 計	395,632	399,378	3,746	3,729	16

※評価差額の過年度処理済額は、税効果相当額を控除し、純資産の部にて処理が済んでいます。

●時価を把握することが困難な有価証券

その他有価証券（非上場株式） 225 百万円
 子会社・子法人等株式 30 百万円

4. 自己資本比率（平成 30 年 3 月末実績）

平成 30 年 3 月末の当金庫自己資本比率は 9.74% となり、国内基準である 4% の 2 倍以上であり、当金庫の経営の健全性がわかりいただけると思います。

自己資本の額（コア資本に係る基礎項目の額-コア資本に係る調整項目の額）	
1,822 億円	
自己資本比率 =	× 100 = 9.74%
1兆8,704 億円	
信用リスク・アセット+オペレーショナルリスク	

(注) 各計数は、単位未満を切り捨てて表示していますので、合計が一致しない場合があります。

日本政策金融公庫との協調融資の取扱いを開始

平成 30 年 7 月 2 日（月）より、日本政策金融公庫との協調融資の取扱いを開始しました。

当金庫のソリューション機能と、日本政策金融公庫が持つ創業支援や企業再生といったノウハウを融合させ、地域の中小企業の方々が抱える資金面の課題の解決を図るためのローンです。ライフステージに応じた以下の 3 つの商品で、幅広いニーズにお応えします。

- ① 創業・起業者向け協調融資「Approach」
- ② 一般向け協調融資「Basic」
- ③ 再生企業向け協調融資「Chance」

なお、ご利用いただける方は、当金庫の営業地域内にお住まいか、事業所をお持ちの方に限らせていただきます。

ローンのお申込みに際しましては、所定の審査をさせていただきます。審査結果によってはご希望に添えない場合もございますのであらかじめご了承ください。

お問い合わせ・ご相談は各営業店にて承っております。詳しくは、当金庫ホームページをご覧ください。

独立行政法人国際協力機構が発行する ソーシャルボンドに投資

当金庫は、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」）が発行する社会貢献債「ソーシャルボンド」に投資しました。

ソーシャルボンドとは、調達された資金が、基礎インフラ開発や社会サービスへのアクセス改善等、社会課題への対応を目的とした分野への投融資に利用されることを前提として発行される債券です。ソーシャルボンドにより調達された資金は、JICA が実施機関となっている政府開発援助 (ODA) の有償資金協力事業を通じて、開発途上地域の経済・社会の開発、日本及び国際経済社会の健全な発展のために使用されます。

引続きリスクの少ない、安全な資産運用を行い、地域金融機関として社会的使命・役割を果たしてまいります。